

# 博物館だより



No.173

令和3年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## ◆博物館NEWS

### 「いろどり」展示第2期がスタート 新資料を加えて展示替えしました!!

昨年11月にスタートしたこの展示ですが、本格的な春の訪れを前に展示替えをしました。この展示は無料です。お気軽に観覧にお越し下さい。

### ① いっぴんミュージアム

この2月に新規寄託された堺利彦書幅を展示しています。堺が獄中で詠んだ短歌の軸で、国内2例目となる貴重な書幅です。

### ② ささやかギャラリー

松田勝弘資料(昆虫標本)を入れ替えました。魅力あふれる虫の世界をのぞいてみませんか。

### ③ 向井澄男「写真展」華やぐ

春の到来にふさわしい、ふるさと京築の「華やぐ」が感じられる写真を展示しています。



▲いっぴんミュージアムで紹介中の新資料 堺利彦の獄中歌「今もなほ蔵生ふるや 草いづやわが故郷の瘦松原に」の軸

## 4月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】 4月3日(土) 9時30分
  - 【古文書講座】 4月10日(土) 10時
  - 【古典かな講座】 4月17日(土) 9時30分
  - 【みやこ学講座】 4月24日(土) 10時
- ※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途通知します。

## 歴史を学ぼうー文化に触れよう! 令和3年度 博物館歴史講座受講生募集!

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩紀行講座」「古文書講座」「古典かな講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。受講を希望される方はお気軽に博物館までお問合せください(継続して受講を希望される方の申込みは不要です)。

なお、各講座では毎回、資料代として200円が必要ですのでご了承ください。

### 講座内容のご紹介

#### 【漢詩紀行講座】

●講師 宮原加代子先生  
●内容 日本の歴史と風土の中で生まれた「日本漢詩」とその詩情を鑑賞します。あわせて漢詩の基礎も学習しますので、漢詩に興味をお持ちの方の参加を歓迎します。辞書・筆記用具をご持参ください。  
●実施日 毎月第1土曜日  
午前9時30分

#### 【古文書講座】

●講師 川本英紀先生  
●内容 江戸時代の人々が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に関わる古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。  
●実施日 毎月第2土曜日  
午前10時

#### 【古典かな講座】

●講師 宮原加代子先生  
●内容 万葉仮名で学ぶ古典文学の鑑賞と手習いの講座です。今年度は在原業平を主人公とする「伊勢物語」をとりあげます。初めての方も歓迎です。筆記用具・用紙などをご持参下さい。  
●実施日 毎月第3土曜日  
午前9時30分

#### 【みやこ学講座】

●講師 当館学芸員  
●内容 「みやこ町と周辺の自然と文化遺産」をテーマに、ゆかりの話題を交え関連学習を進めます。郷土の歴史についての講義はもちろん、実際に現地(遺跡やゆかりの地など)を歩き・見て・触れる体験型学習も行います。  
●実施日 毎月第4土曜日  
午前10時

\*見学会等は開催の都度連絡します。



▲参考:みやこ学講座における現地見学会の様子  
現場・現物からの発見・着想を大事にしています

## 2月の業務日誌から

2月6日(土)、資料保護のため制作を進めてきた複製資料の色合せが行われました。資料の展示は一定の休息期間が必要なため、複製はその間の身替りとなるものです。現物精査して3D制作した原型に塗る色の最終調整を行いました。

2月10日(水)から6日間、八洲学園大学(神奈川県)の佐藤浩司さんを学芸員実習で受け入れました。佐藤さんは豊富な現場経験がありながら資格取得の時間確保が難しかったため、リカレント教育でこの実習に挑戦したとのこと。



▲複製作業が進む木造僧形八幡神坐像(生立八幡宮所蔵)  
高精画像を撮影して忠実な再現を目指します



▲実習最終日に犀川小の児童を対象に行った学習支援解説  
道具にまつわる様々な話を分かり易く解説して頂きました

みやこの歴史発見伝 136

140年前に

外国人が調査した

みやこの町の古墳④

—イギリス大英博物館収蔵資料から—

可能性が高くなりました。今回はその詳細についてご報告させていただきます。

「前方後円墳」から「方墳」へ

「古墳」といえば、

卒業・入学と「校歌」

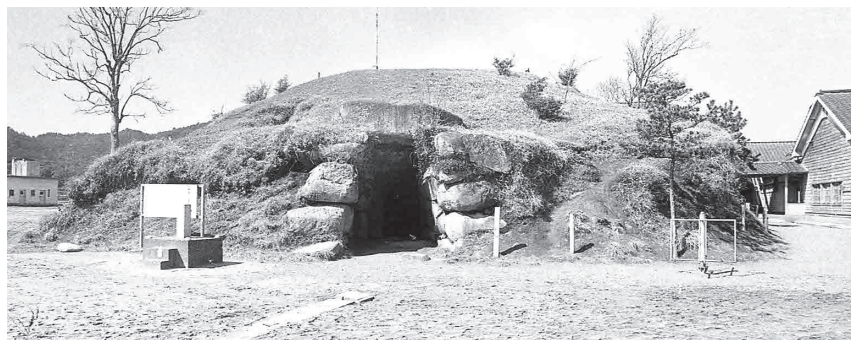
新年度を迎え、新たな門出の季節となりました。今年も、新型コロナウイルス感染症防止を目的として縮小された形となりましたが、3月の卒業式、4月の入学式で歌われるのが「校歌」です。みやこ町勝山の黒田小学校は、校地内に国指定史跡の古墳がある小学校として知られ、また「橋塚の名もかおる」と全国的にも珍しく古墳の名称が歌詞に登場する校歌が歌い継がれています。近年、この橋塚古墳周辺の施設建設に伴う試掘調査の結果、濠を含めた古墳の規模が75m四方の方墳（上から見た形が四角形の古墳）に復元することができると、これまでの認識を覆すような大変重要な古墳である



ウィリアム・ガウランド (1842~1922)

「前方後円墳」(上から見た形が昔の鍵穴形の古墳)が広く知られています。この古墳は約1750年前から造られた形の古墳で、当時、王権の中心地であった奈良・大阪を拠点とした天皇や親密なつながりをもつ有力な首長など、限られた人物のみ築造を許可された形の古墳とみられています。しかし、その約300年後、全国的に王権のシンボルとされた古墳の形が「前方後円墳」から「方墳」へと変化する傾向がみられ、その数も一気に減少します。つまり、この時期の方墳が位置する地域は、その当時、強大な権力を持つ首長がいたことを物語る痕跡となっています。みやこ町には、この時期として九州最大の方墳である甲塚方墳(46・5m×36・4m)があり、橋塚古墳はそれに次ぐ規模(37m×39m)であることが確認されています。つまりこの時期の九州における上位2基の方墳がみやこ町内に位置することになるのです。さらにこの2つの古墳の墳丘は、

異なる奈良県の赤坂天王山古墳(45・5m×42・2m)や推古天皇とみられる植山古墳(32m×40m)とほぼ同規模であることが確認できます。また、橋塚古墳の付近に位置する綾塚古墳の石室(19m)は、この当時、天皇をしのぐ強大な権力を誇示した蘇我馬子の墓とみられる石舞台古墳の石室(19・08m)と同規模であることが確認されています。このようにみやこ町の代表的な3つの古墳は、当時の歴代天皇の陵墓に「勝ると



45年前の橋塚古墳

も劣らない」規模の墳丘や石室をもつことから、一般的にみられる地方の首長墓ではなく、非常に強大な力を持つ人物の墓である可能性が高くなりました。

ガウランドの記録による古墳の評価

以上の調査結果でもその重要性を把握することができそうですが、さらにそれを補強するものが、138年前にこの古墳を調査したイギリス人ウィリアム・ガウランドの記録です。彼は、橋塚古墳の墳丘の形について「Terraced conical with a square base」と記録しています。直訳すると「四角い基壇部をもつ段のある円墳」という意味であることから「上円下方墳」(基部が四角形でその上に円墳をのせた形)という墳丘の形を示すものと捉えることができます。この形の古墳は、方墳よりも、さらに限られた人物の墓とみられ、国内でも確認事例が僅か6基に止まり、また明治・大正・昭和天皇の御陵はこの上円下方墳を採用しています。今後、発掘調査等によってガウランドの記述内容を実証することができれば、橋塚古墳の評価が根底から覆る可能性があるのです。

大英博物館に残された138年前の彼の調査記録が、国や時代を超えた形で、みやこ町にある古墳の歴史的な評価の重要な判断基準として用いられていることは、非常に興味深いものです。



「おやじの会」、教職員による古墳の清掃活動

様々な可能性を秘めたこの古墳は、いつの日かガウランドの記述が実証されることを願いながら、今後とも地域の人々に親しまれ、未来へと大切に保護されていくことでしょう。

(井上信隆)

「学校のシンボル」を未来へ！  
138年前に一人のイギリス人をこの町に足を運ばせるきっかけとなった橋塚古墳は、この学校の歴史教材としての活用をはじめ、地域住民や卒業生にとつてかけがえのない「学校のシンボル」になっています。

現在、この学校の教職員やPTA「おやじの会」による見学者対応の除草作業が定期的に行われ、また学習発表イベント「こふん祭り」では6年生が地域の古墳について発表するなど、古墳の保護・活用を目的とした取組みが行われています。